

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

ー2024年4月23日第121号ー

<目次>

●歴史を引き継ぎ、明日へと発展する「新たな市民ミュージアム」を

■川崎市の人口、155万人を突破

▲お知らせコーナー

- ① 4/23～27 ゆめシネマ「雪道」上映会
- ② 4/24 川崎市政学習会
- ③ 4/24 情報公開裁判 控訴審判決
- ④ 4/25 ストップ・リニア訴訟 控訴審理開始
- ⑤ 4/25 台風19号多摩川水害川崎訴訟 口頭弁論
- ⑥ 5/1 第95回川崎メーデー
- ⑦ 5/10 緊急学習会：日本と東アジアの平和をどう作るか
- ⑧ 5/18 映画「教育と愛国」上映会

★編集後記

●歴史を引き継ぎ、明日へと発展する「新たな市民ミュージアム」を

20日の東京新聞に、全国の公立の博物館・美術館で、「収蔵庫が悲鳴」をあげていることを特集していました。

全国の博物館や美術館の収蔵が満杯状態のところは、57%になっている。

藤沢市では、貴重な考古・民俗資料5万2千点を4ヵ所に収蔵しているが限界に近づき、新設以外に解決策がない。しかし、建設予定費が高騰し、計画の見直しになった、と報じている。

4月15日に、「三菱ふそう跡地に、市民ミュージアムと緑豊かな憩いの場を」求める陳情署名の運動をしている住民12名が、川崎市市民文化局の新たな市民ミュージアム準備担当課長から、説明を受け、懇談をしました。

※この陳情署名運動については、メルマガ116号(3月19日号)で記事にしました。川崎民主市政をつくる会のホームページに掲載

川崎市は、「(仮称)新たな市民ミュージアムに関する基本計画」策定に向けた検討状況についての中間報告を2月に発表しました。2023年6月からの基本構想公表以後の検討結果の詳細な報告です。(川崎市ホームページから見られます。)

この中で、注目したのは「ミュージアム(拠点施設)」と「まちなかミュージアム」の活動についての提案です。

◆ミュージアム(拠点施設)……来館することで得られる経験や、デジタルでない「リアルなモノ」に出会える機会を提供する。

◆まちなかミュージアム……市民にとって身近な文化や芸術に関する接点を増やし、新たなミュージアムがもたらす効果を地域や生活に波及させていく。既存の市内他施設を活用する。

この報告内容を発展させると、現在の候補地としている生田緑地ばら苑隣接地は、丘の上にあり、敷地も狭く、155万都市・川崎の新たなミュージアム拠点施設にするには、かなり手狭で無理があります。

アクセス面の問題点は、市の担当者も認めています。

また、まちなかミュージアムを、現在でも数が不足し、市民がフル活用状態になっている既存の他施設(市民館など)を活用するのもかなり無理があります。

それなら、川崎市のほぼ真ん中に位置し、地域住民の多くが望んでいる西加瀬・三菱ふそう跡地に、拠点施設をつくり、バラ園隣接地には「まちなかミュージアム」専用施設を、むしろ「ミュージアム分館」として建設してはどうでしょうか。

15日の市民文化局との懇談のなかで、住民から「生田は決定なのか？」の質問があり、「まだ、候補地です。」との回答がありました。

そこで、住民からは「ぜひ、地の利もあり、敷地のゆとりがある三菱ふそう跡地を、もう一つの候補地として検討してほしい。」と強く要望をしてきました。

何としても、一万筆以上の署名を集めて、三菱ふそうの「工場跡地」を、市民の知恵を集めて、「文化の拠点」に造り替えていきたいと思えます。(H)

■ 川崎市の人口、155万人を突破

川崎市は4月9日現在の人口(外国人含む)が155万242人と、155万人を突破したと発表しました。

1924年誕生の川崎市が市制100周年を迎える今年2024年で人口が31倍と急速に膨らんだことになります。

ただ出生数から死亡数を差し引いた人口の自然増減は減少が続き、現状は市外からの流入による人口増が続いています。

<2023年の人口動態から明らかなこと① 転入増が人口増加をけん引>

2023年の川崎市の人口増減(自然増減数+社会増減数)は、前年の増加数を3,504人上回り、5,195人増(人口増減率0.34%)でした。

このうち自然増減は2,361人減(出生11,371人-死亡13,732人)で、前年を269人下回りました。自然増となったのは、中原区だけで、468人の増加です。

一方、社会増減は7,556人増(転入106,140人-転出98,584人)で、前年を3,773人上回りました。

<2023年の人口動態から明らかなこと② 転入が転出より増は、青年層だけ>

もう少し、くわしく、人口動態を見ていきます。

年齢5歳階級別社会動態をみると、

① 0～14歳までは、転出超過で人口減。

0～4歳は(転入3711人-転出5177人)で1466人減少

5～9歳は(転入1910人-転出2679人)で769人減少

10～14歳は(転入1097人-転出1176人)で79人減少、と、ここまで転出増が続きます。

② 15～29歳までは、転入超過で人口増。

15歳からは、この動態が転換します。

15～19歳は(転入3376人-転出1781人)で1595人増加

20～24歳は(転入8264人-転出4695人)で、3569人増加

25～29歳は(転入29000人-転出24305人)で4695人増加

③ 30歳以降は、どの年代でも、転出数が上回ります。

30歳からは、この人口動態が再び、転出超過に転換します。

30～34歳で、転入16,113人、転出16,242人で、129人の転出超過に変わります。

そして、35～39歳で900人、40～44歳で750人と、転出超過がピークとなりますが、それより上の年代でも全て転出超過が続いています。

<人口動態とまちづくりの課題>

この5年間の人口増減の推移をみると、毎年、進学や就職により移動する「15～24歳」や転勤・転職、婚姻により移動する「25～29歳」の転入超過が顕著です。

一方で、「0～9歳」の未就学児や小学生と「35～44歳」の子育て世代の年齢層で、転出超過が顕著です。

さらに、年々、転出超過の年代が広がり、ついに、2023年には、川崎市で転入超過は、15歳～29歳の年代だけになりました。

また、川崎市の2022年の合計特殊出生率は、1.40です。

これは、1人の女性が一生の間に平均1.40人の子どもを出産することを意味します。(前年の令和3年1.39と比べると、0.01上昇)

川崎市の合計特殊出生率は、長期的には下降傾向にありますが、全国平均(1.34)や神奈川県平均(1.35)を上回っています。

しかし、出産した親たちが、川崎で子育てをし、この町に定着するよりも、他の自治体に転出することを選ぶ人数が増えているのです。

私たちは、「子育てするなら川崎」「子どもから高齢者までが安心して住み続けられる川崎」を望みます。

しかし、人口動態からは逆の現実の進行がわかるのです。

市民の生活実態に寄り添い、全世代の社会福祉施策の充実、特に、子育て支援策の充実が緊急に必要です。(H)

お知らせコーナー

① ゆめシネマ・映画「雪道」連続上映会

4月 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |

9時 ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

12時 ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

15時 ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

18時 - | - | - | ○ | ○ |

23日(本日)のみ3回とも終映後に梁澄子(ヤンチンジャ)さんのトークあり

会場:かわさきゆめホール

一般:1000円

障がい者:500円

学生以下:200円

予約無し:+500円

お申し込み

044-433-3003 かわさきゆめホール

cinema@kawasakiyume.com

[詳しくはこちら](#)

②川崎市政学習会

4月24日(水)18時半

多摩市民館大会議室

主催 川崎民主市政をつくる多摩区の会

連絡先 神奈川土建川崎西支部

044-931-3336

③情報公開裁判 控訴審判決

4月24日(水)1:50

場所:東京高等裁判所 424号法廷

最寄り駅(地下鉄霞ヶ関駅)

皆様の傍聴参加をお願いします。

10分前までに424号法廷横の控室へお集まりください。

判決後、報告集会を行いますのでご予約ください。

連絡先 畑山 070-5574-8006

④ストップ・リニア訴訟 控訴審理開始

川崎の原告の天野さん、静岡の原告の森さんが意見陳述

4月25日(木)午前11時

場所:東京高裁101号法廷

スケジュール

10:15 東京地裁前集会

10:30 傍聴券抽選

11:00 開廷

12;30 院内報告集会（衆議院第1議員会館第3会議室）

⑤台風19号多摩川水害川崎訴訟 口頭弁論

4/25(木)15:15 開廷

横浜地裁川崎支部 1号法廷

14:45 から事前集会を開催

[詳しくはこちら](#)

[水害の会 HP](#)

⑥第95回川崎メーデー

5/1(水)10時開会～12時半デモ行進

会場 中原平和公園野外音楽堂

よびかけ 川崎メーデー実行委員会

連絡先 川崎労連

⑦緊急学習会

日本と東アジアの平和をどう作るか

-岸田政権の軍拡と憲法改悪の新たな局面-

一橋大学名誉教授:渡辺治先生講演会

5/10(金) 18時

テクノかわさきホール

資料代・100円

主催:日本共産党川崎市議団

044-200-3360

⑧映画「教育と愛国」上映会

教科書で”今”何が起きているのか

5/18(土)

総合自治会館ホール

資料代 800円

主催教科書を考える川崎市民の会

連絡先 040-5574-8006(畑山)

[詳しくはこちら](#)

★編集後記

先週は、JR 東海が、来月 5 月から始める「リニア新幹線の本格掘進」について市内 3 カ所で、説明会が開かれたので、21 日の宮前市民館大ホールでの説明会に参加してきました。

雨降りの日曜の夜という悪条件もあったのでしょうか、参加者は少なく、70 人前後で客席の空席が目立ちました。壁際に並んで立つ JR 東海の若手社員の姿が目立ちました。

スライドを使って、梶ヶ谷工区で実施された「調査掘進」が「適切な施工管理の下、周辺に影響を与えることなく実施された」ことを、淡々と説明。

それをふまえて、「5 月から梶ヶ谷から東百合ヶ丘へ本格掘進を開始する。さらに、2025 年 6 月からは、梶ヶ谷から等々力への掘進を開始する。お住いの皆様に安心してお過ごしいただけるように、工事を安全に実施する。」として、説明を締めくくりました。

質疑の時間になると、次々と発言が続きました。

梶ヶ谷立て坑に近いマンション理事の方が、立て坑工事の際の建物や道路の被害を切々と指摘しても、調査の結果は問題なしとの回答？

東京外環の陥没事故からシールド工法の問題点を指摘しても、専門家からの安全性の確認があるとの回答。

能登地震のような震度 7 の地震が起きたら安全が確保できるのかと聞くと、大深度の場合は地震の影響は少ないと、さらりと回答しました。

いったい、どんな調査をもとに、そう断言できるのでしょうか。

再質問ができない仕組みが「質疑」の形をとっていても、一方的な説明の上塗りになっている仕掛けなのです。

8 時 25 分になると、まだ質問者がいて発言を求めているのに、司会が一方的に閉会を宣言。

なんとも後味の悪い説明会でした。

こんな説明で、来月からの「大深度トンネルの本格掘進」を開始させてはいけない。

だが、そのためにはどうすればいいのかと考えこんでしまいました。(H)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆**チェンジかわさき!**☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/7GZWd2QQ62AS?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp